

2017年12月19日掲載

### 「やるかやらないか」

「できるかできないかではなく、やるかやらないか」。私がコミュニケーションの師匠から学んで大事にしていることのひとつだ。

11月末、北海道大の大学院生が学ぶ新渡戸スクールで講演した。グローバル社会で活躍する人材の育成を目的としたプログラムだ。様々な分野で活動している社会人の講演を通して学生の視野の拡大などにつなげる狙いがある。

昨年と異なり、今年の講演は英語のみ。最初は断るつもりだったが、昨年と目的は一緒なのに断ろうと思った理由を考えてみた。英語だからだ。うまくできるか分からない、伝わらなかったらどうしよう、と日本語から英語になっただけで色んな解釈をつけて「できない」としていた。

しかし、この講演で「何を届けたいのか」と立ち止まってみた。出てきたのは自分の経験を一人でも多くの学生に活かしてほしいという思いだった。依頼から5か月。少しでもレベルを上げようと英語のアプリで勉強したり、しばらく何もせず落ち込んだりの繰り返しだった。

そして当日。緊張している自分に許可を出し、なんとか立ち続けることができた。講演の後には私の分野に興味のある学生から質問もあり、目的に沿った結果は創ることができたように思う。

やるかやらないかで「やる」ことを選択し、私の視野も広がった。選択しなかったら、この達成感や充実感を味わえなかった。迷ったら、何をしたいのかという立ち位置から物事を選択していきたい。

(毎日新聞)